

もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch

[ステッチ]

TAKE
FREE

vol.07
2013.03.11

発行/もりおか復興支援センター



時々、立ち止って、
振り返って。

忘れない・発信する・
つないでいく

remind 3.11

インタビュー
大友啓史 (映画監督)

時々、立ち止って、 振り返って。

2011年、3月11日。

世界中が大きなショックと悲しみに包まれたあのとき
誰もが心から祈り、願ったこと。感じたこと。

あなたは今も覚えていますか？

何かしたい、しなくちゃ。でも、何ができる？

抱いていたはずの強い気持ちは

日々のスピードに振り落とされて

気をつけていないと、どんどんこぼれていってしまいます。

震災から2年。

少しずつ進んではいけるけれど

風景、暮らし、こころ

まだ変わらないでいるところもたくさんある。



もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch [ステッチ]

vol.07 2013.03.11

02 時々、立ち止って、振り返って。

忘れない・発信する・つないでいく

04 **remind 3.11**

[特集1・過去]

今でも、あの日のことは
鮮明によみがえってくる

[特集2・現在]

06 それぞれの復興 それぞれの未来

12 メモリアルフィルム「ひとつ」

[特集3・未来]

14 逆境の中でも、守ってくれる人がいた。

16 復興支援センターに行ってみよう!

インタビュー

18 大友啓史 / 映画監督

22 復興支援シンポジウム

23 プレゼント

【表紙写真】

「家族写真」をテーマに公募し、22点を選定いたしました。ご応募いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

発行日 / 2013年3月11日発行

発行 / もりおか復興支援センター

盛岡市内丸3-46

TEL 019-654-3521 (総合)

TEL 019-654-2502 (復興推進広報事業)

企画・編集 / 株式会社ラヂオもりおか

デザイン / 冬部幸治 (創造集団 志庵)

印刷 / 山口北州印刷株式会社

Special Thanks / 取材、制作にご協力いただいた皆様

※取材、撮影、制作など本誌作成にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

※掲載されている情報は平成25年2月11日現在のものです。発行後の情報変更につきましてはご容赦ください。

※このフリーマガジンは盛岡市の復興推進広報事業によって発行されています。 ※無断転載禁止

時々でいい
立ち止って、振り返って
あなたに覚えていてもらいたいです。
悲しみを乗り越える力を生み出すために。
そして、同じ悲しみを生み出さない
未来のために。



忘れない・発信する つないでいく remind 3.11

東日本大震災の発生から2年。
今回のstitchでは、
「過去」「現在」「未来」の3つの視点から、
改めて震災と復興を見つめます。



過去

Past

手記

今でも、あの日のことは
鮮明によみがえってくる。

鹿嶋茂樹

「かしましげき」

大槌町出身、盛岡市在住

そのとき私は、釜石市片岸町にある職業訓練校で授業中だった。

今まで経験した事のない大きな地震。揺れがおさまるとすぐに大槌町の自宅を目指して車を走らせた。大事な物をかき集めて中央公民館に避難しようと思っていた。しかし300メートル位走った時、「切らされて」高台上った。そこが片岸町の指定避難場所とは知らずに。

今思えば、片岸町は亡き母の実家のある町。あのとき大槌町に戻っていたら、私は津波の犠牲になっただろうかもしれない。母が「大槌に戻ってはいけない」と引き留めてくれたのだと思う。あの不思議な体験は今でも忘れる事ができない。

高台から町が津波に襲われる光景を見



鹿嶋さんの自宅があった場所。震災直後、鹿嶋さん自身が携帯電話のカメラで撮影した。「家」の姿をとどめるものはなにもなく、唯一残ったのは、バスタブだけだったという。



鹿嶋茂樹

[かしま・しげき]

大槌町出身。震災で家を失い盛岡市へ避難。現在はボランティアで盛岡市が運営する復興支援学生寮「しえあハート村」のアートギャラリー管理などを行っている。

て、魂を抜かれたように何も考える事ができなかった。津波の大きさに驚き「高台まで津波が来たら……」と思った。デイケアホームの車椅子のお年寄りたちをさらに山の上に避難させた。高台での余震も大きく、電信柱がしなり、電線がヒューンヒューンと音を立てていた。その夜は真つ暗闇の中、波の音だけが不気味に聞こえていた。

翌朝、歩いて大槌町へ向かった。古廟トネルを抜けると、信じられない光景が目に見え、飛び込んできた。生まれ育った町の無残に変わり果てた姿。町の中は歩くことができず、バイパス道路のトンネルを越え、城山に登り、やっと中央公民館に辿り着いた。そこで近所の人達に会う事ができたが、私は死んだものと思われていた。

中央公民館は人であふれ、横になって眠る事もできない。3、4日後、自分の車で眠ろうとヒッチハイクで片岸町の高台に戻った。しかし大槌の山火事がここにも迫り、高台にいた約160人は上栗林集会所へ避難。以来約4ヶ月をそこで過ごした。同じ地区の住民の中に、ぼつんとよそ者の私。色々助けてもらったが、嫌がらせをする人がいたのも事実。仕方のないことだけど、残念に思った。

震災から2年たった今でも、あの日の事、その後の避難生活の事は鮮明によみがえってくる。失った物はあまりに多い。私も含め、たくさんの人たちが先の事など考えられないまま暮らしている。だけど、時間だけは過ぎてゆく。

忘れないで欲しい。傷ついた心を抱え、外にも出られず、思いを話すこともできない人達がまだいる事を。

知っていてほしい。あなたの周りには、手を差し伸べてくれる人が必ずいる。

内陸 × 沿岸

座談会

それぞれの復興 それぞれの未来

～ふるさとへの思いは同じ～

阿部知幸(盛岡市・相談員)、阿部力(大槌町・漁師)、
金崎公威(大槌町・食品加工会社社長)、高橋博之(花巻市/大槌町・水産業)
※手前右から時計回り

stitch（以下S）大楯在住の皆さん、震災直後から現在までの状況について教えてください。

高橋博之さん（以下H）震災前まで花巻市に住んでいました。震災から5日目に車で支援物資を届けにきて、その後自転車で海岸を南下。大楯の避難所で知り合いに偶然会ったのをきっかけに、ずっとこっちにいます。今は山田から石巻を範囲に、水産業の復活をサポートする活動をしています。花巻へは月に1度帰るかどうかですね。

金崎公威さん（以下K）大楯町にあった、父が営むワサビ加工工場で働いていましたが津波で被災。取引先の工場が北海道の網走にあつたため、姉と二人で北海道に渡り、1年間その工場で働いてきました。震災から1年後に釜石に工場をつくり株式会社として登記し、同時に自分が取締役社長になりました。

阿部力さん（以下A）震災前からずっと漁師をしています。所有していた

漁船4艘のうち、助かったのは弟が沖に逃がした1艘だけ。今は2艘の小さい船を加えてなんとか（漁業を）再開しました。収穫できているのはワカメと昆布。今年からカキ、来年からはホヤが採れるようになります。

S 阿部知幸さんは内陸へ避難した方の支援をしていらっしゃいますが、前と今とで何か変化を感じますか？

阿部知幸さん（以下T）「将来どうなるのか」「いつ戻れるのか」という不安や焦りを今も抱いている人は多いです。一方で、「いつかは地元」という気持ちが「内陸でもいいや」と変化し始めた人も増えてきたように思います。内陸避難者の中には「地元を捨てて逃げた」と自分を責めている方も少なくありません。実際にそういうことを言われ、辛い思いをした人もいます。

S 震災後も大楯に残っているお二人は、町を離れた人たちについて、思う



阿部力 *あべ・つとむ

大楯町在住。漁師。津波により所有する漁船4艘のうち3艘を流されたが「残った1艘でまた始めよう」と、いち早く再開に向け立ち上がった。現在「新おおつち漁協」副組合長として、まちの漁業再生にも取り組む。

ことはありますか？

A 私の友人知人にも、内陸に避難している人がいますが、一人ひとり事情があつてのこと、いいか悪いか線引きするなんてあり得ない話。「ここに住まなければならぬ」というルールはないんですから。一時期（他の場所に避難、移住すること）人口流出が深刻な問題、と言われたときもあつたけど、震災前からそういう状況でしたし。仕方なく出て行かなければならなかった人に、誰もどうこう言うことではないです。

K 私の同級生も、高校卒業後地元に残つたのは5、6人ぐらい。もともとみんな内陸や関東方面に出て行っているから、震災をきっかけに町を離れたという人はいません。逆に両親は内陸に移つたけど、自分たちは残るって友人もいます。

H 花巻もそう。農山村から若い人がどんどんいなくなり、年寄りがなんとかが頑張っている。あと数十年経つたらどうするの、っていう状況です。震



金崎公威 *かねざき・こうい

大槌町在住。ワサビ加工会社「カネ弥株式会社」代表取締役社長。父親が経営していた大槌町のワサビ加工場が津波で全壊。1年後、釜石に工場を建て、株式会社化し、社長に。地域の雇用拡大を目指す若き経営者。

災後、沿岸に来てみたらこっちもやっぱり同じような感じで、岩手県全体から人口が流出している。問題は、その場所に魅力がないから出て行くのであつて、それをどうにかしていくことに尽きるんじゃないかなと。

S 震災への関心が風化し始めていると感じることは？

A 震災後、九州に行く機会があつたんです。「岩手から来ました」と自己紹介したら、「岩手って、どこにあるんですか？」と訊かれました。震災後にはです。正直え？とは思つたけど、そんなもんなんだ、仕方ないな、って。全然関係のないところに住んでいる人にとって、震災は身近な問題じゃない。風化以前に、ピンと来てないんですよ。あとから気づいてメールをくれた人もいましたけれど。

K 自分に置き換えて振り返ってみても、阪神淡路や新潟、ほかの国で災害が起きた時、そこまで関心を持ってなかつたなあと思います。自分は震災

直後から1年間網走にいましたが、震災のことを話しても「ふーん」という反応だったりして「ああ、(震災は、ここの人たちにとって)まったく別世界の話なんだなあ」と思いました。一方で、被災地にボランティアしに行っただよ、という人もいたし、姉がツイッターを通して網走在住の見知らぬ人から救援物資を送ってもらったこともあります。関心の「ある人となない人」の温度差があると思えました。

S 内陸はどうですか？

T 盛岡は、被災県の県都としては震災への関心が低いなと感じています。震災直後、ガレキ撤去のボランティアに参加したことがあるんですが、県内よりも県外から来ている人のほうが圧倒的に多かったです。

H 「まだやってるの？」って反応されます。震災直後、関東や関西から来てくれるボランティアさんの勢いに押されて、内陸の人たちは出遅れてしまった。そうなると、もう行きにくい



高橋博之 *たかはし・ひろゆき

花巻市／大槌町在住。元県議会議員。現在は大槌町を中心とする沿岸地域を活動拠点とし、「海の右腕『ウミギウデ』」として水産業をはじめ被災地の復興に尽力。「どうにかするぞ」前掛けトレードマーク。

んですよ。風化つてよく言われるけれど、こっち(沿岸)の人と「沖繩の基地問題を真剣に考えているか」という話をする、と、やっぱり他人事なんですよね。

S 内陸の人は「何かしたい」けど「何をしたらいいのかわからない」という人が多いと思うんです。みなさんにとって、これをしてもらったら助かる、うれしい、ということはありませんか？

A その思いだけで充分です。大槌まで来ていただいて生まれた縁もありますし、来ることはできなくても思いを届けてくれることでつながる縁もある。そういう出会いやつながりがいちばん元気をもらえます。心があたたまって、パワーになります。震災後、いろんな人に出会う機会をいただいで、日本中に頑張っている人がいっぱいいるんだな、って思いました。ここはたまたま津波で全部なくなっただけ、何も無いところからつくり上げよ



阿部知幸 *あべ・ともゆき

盛岡市在住。東日本大震災をきっかけに、勤めていた会社を辞め「SAVE IWATE」スタッフに。現在「もりおか復興支援センター」の生活支援相談員として、内陸避難者のさまざまなサポートに携わっている。

うとしていいる人は日本全国にたくさんいる。自分たちだけ特別何をしてもらいたいとか言う立場じゃない。

K 自分は「これをしてほしい」というのは思い浮かばないです。強いていえば…そうですね、自分は郷土芸能（虎舞）をやっているのです、そういうのを観てもらって、大槌に関心を寄せるきっかけにってもらえたらうれいすね。

H 私は町がなくなっても、経済が破綻しても、「立ち上がろう」と思っている人がそこになれば、必ず再興できると思っています。いちばん怖いのは立ち上がろうという人がいなくなる事。自力で立ち上がろうとしている人の両脇を抱えてあげるようじゃだめ。被災地だけでなく岩手全体が大変な状況の中、与えるだけの支援ではなく内陸と沿岸がお互いプラスになるような取り組みが必要だと思いますし、長続きすると思えます。

T 内陸に避難している人たちが今どんな状況に置かれているのか、まずは

その背景を理解してほしい。避難者からも「自立のためにこういうことを手伝ってほしい」とどんどん発信してもらえろと思えます。また、避難者の方から「ありがとうはだいぶ言ったから、今度は言われる人になりたい、何かできることはないか」と言われるんですが、お願いでできるようになんかできないかな。そのニーズをマッチングできるものがあれば、もっと関心や交流が深まるのかなあと思っています。

H 西和賀町に支援してもらっていた陸前高田の人たちが、その御礼にと西和賀の雪祭りの手伝いに来たことがありました。与えられてばかりで申し訳なく辛かった、これで対等になったと喜んでいたそうです。内陸で困り事があれば気軽にお願いしてみたらいいのでは。盛岡や花巻は地域のつながりが薄くなっているのです、沿岸のまちから教わることも多いですし。

S では、最後に伺います。これから挑

戦してみたいことはありませんか

A自分は漁協の副理事長をしているんですが、漁協が経営する養殖を計画しています。漁協自営の養殖は三陸沿岸のどこにもないそうなんです。

そういう意味でもこれを絶対成功させたい。いずれは漁協で加工販売までがけることを計画しています。今は形にならなくても「どうにかするぞ!」と頑張っている人が周りにたくさんいるので、その気持ちを切らさないようにこれからもやっていけたらと思っています。

K自分が会社の代表っていうこともあります。震災前から問題とされてきた人口流出のいちばんの理由が仕事がないことなので、会社を大きくして雇用を拡大できるように頑張っていきたいです。

Hいちばんの目標は地域の自立ですね。自分の飯を自分でまかなえるって、何よりも誇りになると思うんです。岩手の一番の宝は自然ですから、それを僕らの力でもう一回開墾して、

お金に変える力をつけたい。漁師さんたちは自然相手で現場から離れられない。だから自分が外に発信して、たくさんの人にその価値を分かってもらい購入につなげたいです。世界に輸出できるような立派な産産を三陸から作っていく。そんな大人たちの背中を、沿岸の子どもたちに見てほしい。そうすれば、子どもたちもふるさとに誇りを持つてくれるんじゃないかと思えます。

I地元に戻りたい、という人ができるだけ速やかに戻れるような支援をしていきたい。福島から洋野町まで、いろんなところから来ているので、自治体によっていろいろなカラーがあって、なかなかスムーズにいかないのですが。各自治体にも協力していただきたいながらサポートしたい。中には経済的理由や病気などで戻れないという人もいます。そういう人でも「チャンスがあればいつか戻りたい」と思ってもらえるような支援をしていきたいです。



撮影協力

Cafe&Bar Ape [アペ]

大槌町吉里吉里2-6-18

TEL 080-4119-6256

営業時間 / 11:00~23:00

定休日 / 不定休

「Ape」とはアイヌ語で「火」という意味。オーナーである吉里吉里出身のノリシゲさん、奥様のRIAさんはミュージシャンでもあります。



映画「ひとつ」で
主役を演じた2人の
アマチュアミュージシャン。
「復興」をテーマにした
映画への思いとは？



メモリアル フィルム

3.11 MEMORIAL FILM "HITOTSU"

ひとつ

インタビュー

あらすじ

東日本大震災後、宮古出身の青年ツヨシは盛岡市復興支援学生寮しえあハート村に入居していた。震災月命日に行われている「11日の灯り」で音楽好きの青年ジュンと出会う。音楽という共通の趣味から仲良くなった二人。しかし、ツヨシは震災の傷から心を開いてジュンと打ち解けることが出来なかった。そんな時、しえあハート村のお世話係木津川のお助言で二人は旅に出る。岩手の豊かな自然の中、様々な人たちと触れ合いながら心の葛藤を受け止め、二人が心を「ひとつ」にして曲を生み出す姿を綴ったロードムービー。



製作

盛岡市広域8市町村とオトナ映画部が協同製作。広域8市町村と宮古市で撮影したほか、市民エキストラ150人が参加するなど地域の協力のもと映画撮影が行われた。
(3.11メモリアルフィルム製作委員会)

監督コメント

映画「ひとつ」では、嫌がおうにも復興を背負って行かなければならぬ「復興世代」の「あがき」を描こうと決めました。「ひとつ」は、みんなで完成させる映画です。観てもらい、話題にしてもらおう。そして、「自分ならこうしていく」とこれからのことを考えるきっかけにする、そんな映画になればと思っています。

「ひとつ」監督 高橋政彦





◎このメモリアルフィルムに出演するきっかけは？

菅野(以下S) 監督が20歳くらいの音楽が出来る出演者を探していて、僕のYoutubeの動画を見て声をかけてくれたのがきっかけです。

RISATO(以下R) 中津川ベリフォークジャンボリーの時に監督から台本を見せてもらって、そこでなんとなく出演することになりました。

◎これまで演技経験はありましたか？

R 二人とも演技経験もなく、台詞の多い役でこなすのがせいじっぱい！台詞を覚えるのが大変でした。

S 思うようにいかな

くて、演技経験者からアドバイスをもらいながら手探りでやっていました。僕はジュンの話しにうな

ずくという演技が多かったですね(笑)

◎震災テーマの映画での役づくりは？

S 震災はニュースでしか見たことがなかったんです。「ツヨシ」は被災した役なので、この役をこなすことが出来るのか不安もありました。宮古弁のイントネーションやアクセントは特に難しかったですね。ネイティブじゃないので。

R 僕は久慈出身で内陸の人間ではないし、震災直後も沿岸へ行きまして。沿岸の気持ちを持ちつつ、内陸の人を演じる。直前まで内容を知らなかった

ので、素のままです。

◎二人での曲作りはどうでしたか？

S 僕が詩を書いて、彼(RISATO)が曲



菅野創一朗/福島県出身の大学生。宮古の青年「ツヨシ」役。

だったので大変でした。

R 詩ができたのがギリギリで。ロケの後、宿のオルガンを弾きながら作って次の日に完成させました。自分ではあまり作らないような曲を作ろうと思っていましたね。

◎最後にメッセージをー

S これを見て感じたことや考えたことをきっかけに、復興を意識して行動したり、家族を大事にする気持ちを共有してもらえればと思います。

R 映画を見て震災を忘れずに、でも楽しんでもらえたらいい。辛いことは忘れてエンターテイメントとして見てもらいたい。

を作りました。ストーリーに沿っていて、伝わる歌詞で、みんな

で歌えるような言葉をと。普段やってい



インタビュー

逆境の中でも、
守ってくれる人がいた。
この小さな図書館が、
そんな記憶のひとつに
なってくれたら。



ここに来る子どもたちは、まるで自分の家のようにくつろぎます。中には「ここ大好きー!」と言って寝そべる子も。

子どもたちを
ガレキから守りたかった

「陸前高田こども図書館

ちいさいおうち」は、201

1年11月25日、陸前高田市竹駒町のコミュニティセンター敷地内にオープンしました。赤い壁と白枠の窓がかわいらしいトレイラーハウスで、内部は木のぬくもりあふれる空間。本棚が壁をぐるりと取り囲み、びっしりと本が並んでいます。ここで子どもたちは好きなように過ごします。本を読んだり、読み聞かせをしてもらったり。

震災後しばらくは、みんな「衣食住」を確保することで精一杯。子どもが読む本なんて、後回しでした。だからこそ私は「ここに子どもの図書館をつくる」と決めました。ガレキの山を毎日見て暮ら

FRED PERRY 正規取扱店

SPICE <http://www.spice-style.com>
TEL:010-694-6656 盛岡市内丸4-1(桜山神社向) 営業時間:11:00~20:00

車両稼働台数盛岡最大級!!
エコなハイブリッド車配備

IGRいわて銀河鉄道定期券をお持ちの方 定期券提示で
タクシー料金1割引
IGR地域医療ラインご利用の方
岩手中央タクシー優待券で
タクシー料金1割引

GPS配車でどこへでもいち早くまいります
ケータイからでも
フリーダイヤル レッコー ハローハロー
0120-05-8686
岩手中央タクシー 本社/盛岡市開運橋通3-38



真っ赤なトレーラーハウスが目印。ウッドデッキがあり、スロープや階段もあります。開館時間は10時から17時。月・木曜日、祝祭日、年末年始は休館。専任の司書が常駐しています。

す子どもたちを守りたかった。読書を楽しむ時間や空間は、平穏な日常生活の象徴。子どもたちが心を開放し、物語の世界に入り込めるような場所をつくりたいと思いました。

「支えてもらった記憶」を
乗り越える力に

小さい頃に読んだ本は、大人になっても心に残ります。自分のペースで読み進めるか

ら主人公と心を合わせることでできるし、周りの登場人物の気持ちも考えることができる。本の世界で遊ぶことは、感性を刺激し、心を成長させてくれます。「後回し」じゃだめ。震災直後を生きる子どもたちにも、本を読む権利があるのです。

「ちいさいおうち」をつくるにあたり、資金を援助してくれた「ジャパン・プラットフォーム」や「東日本大震災復興支援財団」をはじめ、日本中からたくさんの支援や励ましをいただきました。私はそのことに「日本の良心」を感じ、とても勇気づけられました。子どもたちも、今はわからなくても、支えてくれた人がたくさんいたという記憶がどこかに残ってくれていたらいい。それが、将来困難に直面したり、辛い思いをし

たとき、支えになってくれると思います。

この図書館もそんな記憶のひとつになってほしいですね。読み聞かせの声、物語の記憶、空気……。あのような逆境の中でも守られ、心からくつろぎ、楽しめる場所があったこと、覚えていてくれたらうれしいです。

高橋美知子さん

昭和50年に「お話」の活動をはじめ、以来県内各地で子どもと読書に関わる活動に取り組んでいる。昭和52年に「うれし野文庫」を開設。平成12年に「うれし野子ども図書館」と改名した(のちに特定非営利活動法人に)。2011年11月25日、震災により図書館が流出した陸前高田市に、うれし野子ども図書館 ちいさいおうち」をオープン。



創立明治36年



地域と共に
歩み続けて **110年**

あなたのそばに もっと身近に

もりしん  盛岡信用金庫

<http://www.morishin.co.jp/>

人、モノ、情報が集まる、人の輪がひろがる

もりおか復興 支援センターに 行ってみよう!

東日本大震災の被災者を支援する拠点施設「もりおか復興支援センター」。盛岡市周辺に一時避難、移住した被災者の方々の情報収集や交流の場にもなっています。さまざまなイベントに参加する人たちの姿で、センターの中は明るく和やかな雰囲気です。気軽に立ち寄ってくださいね。



折り紙サークル講師
丹野恵美子さん
「たんのえみこ」

熱中も進歩 「折り紙サークル」

毎月一度不定期で開催されている「折り紙サークル」では、現在15名の生徒が、丹野恵美子さんの折り紙講習を受けている。折り紙作家として盛岡と米沢を中心に活動し、世界数か所で展示会を開いた経歴もある丹野先生。震災直後から折り紙を使った被災地の子供たちのケアを、沿岸の避難所がなくなるまで行ってきた。その後、もりおか復興支援センターから声をかけられ、折り紙サークルを2011年11月にスタートさせた。

生徒は6代を中心とする、20代から80代の女性。作業が遅れてしまう人をさりげなく他の生徒が助けたり、先生が手伝ったりしながら折り紙を折る。ちよつとしたことで笑いが起こったりと、サークルの雰囲気は始終なごやか。「折り紙に熱中できるようになったのも進歩。作った作品はいつも、娘や孫にプレゼントしている」と話してくれた人もいた。

しかし、教室が始まった頃は、こんなに明るい雰囲気ではなかった。教室の開始から約1年間、丹野さんは生徒たち自身の話をほとんど聞いたことがなかった。和やかな雰囲気ながら、どこか打ち解けきっていない状況の中、丹野さんは2012年9月に「ブラザおどつて」で生徒との作品展企画を企画した。



作品を作り上げることを通して、みんな前向きになったという。

積極的になった生徒たち 自分たちで作りに上げる展覧会

「1年経ったのだから、受け身ばかりではなく一歩踏み出すことが大事」と、生徒たちともりおか復興支援センターを飛び出し、はじめて行った展覧会。作品の展示から受付まで、すべて生徒たちが行った。パッチワークのように和紙をつなぎ、来場者とともに作り上げた作品も、生徒たちが講師となり、来場者に教えた。

一般の人たちとの交流や初



友人・家族にプレゼントしたいからと参加する人も。

めての経験をした彼女たち。休憩時間に丹野先生が耳にしたのは、震災の時の体験談や、生まれた土地を離れ盛岡に移り住んでからの生活の話。生徒の中には家族や友人を亡くした人も多い。震災の体験が、はじめて彼女たちの口から吐き出された。この展覧会を境に、彼女たちは明らかに前向きになったという。

サークルを通して積極性

を見せ始めた彼女たちの中には「もっと折り紙を勉強して、地元大船渡の人を喜ばせたい」と、サークルを飛び出して折り紙を勉強する人も。

継続しているイベント

❖お茶っこ飲み会（毎週土曜日）

みんなで集まってお茶を飲み、お菓子を食べながらお話しする交流イベント（写真①）。

❖地域別お茶っこ飲み会（毎週木曜日）

出身地域別のお茶っこ飲み会。各地域の方をお招きして行います。

❖学習支援サロン（毎週日曜日）

被災地から避難された子どもたちの学習支援（写真②）。

❖キルトサークル（不定期開催）

キルト作りを通して人と人とのつながりを深めていくイベントサークル（写真③）。



❖refresh ma'amサークル（不定期開催）

子育て中のお母さんを中心に、教養・美容など生活に役立つ活動を学ぶサークル。メイクアップ教室やアロマテラピー教室などを開催。

❖紡ぎサロン（毎週水曜日）

復興ぞうきんを通して人と人とのつながりを深めていくサークル。

❖囲碁将棋サークル（毎週水曜日）

囲碁や将棋を通して人と人とのつながりを深めていくサークル。

さらには、折り紙の作品を売ったお金で、地元へ寄付したいという人も現れた。自分のできることを探し、自信をつけ、誰かの役に立ちたいという気持ちをもち始めた人が増えたという。

一期生はお手伝い

4月から新規生徒が活躍

1年半続いている折り紙サークルは、4月から15人の新規生徒を迎える。今年度で



丹野先生だけでなく、折り紙作家のゲスト講師が参加することも。

卒業する一期生もいる一方、先生のアシスタントとして残る人もいる。もりおか復興支援センターでは新旧生徒たちの作品の一部が飾られている。一度立ち寄って、間近で見極めてはいかがだろうか？



もりおか復興支援センター

☎019-654-3521

- 住所 / 盛岡市内丸3-46 盛岡市役所内丸分庁舎
- 開館時間 / 10:00~19:00(休・月・月曜祝日の場合火曜休館)
- TEL 019-654-3521(代)
- FAX 019-654-3524
- アクセス / 県庁・市役所前バス停下車 徒歩2分
- 駐車場 / なし(公園地下駐車場)センター利用1時間無料



表面だけを真似た

コスパではなく

作品の「スピリット」を

描くことにこだわりたい。

Stitch INTERVIEW

大友啓史

[映画監督]

Keishi Otomo

『ハゲタカ』『るろうに剣心』と、監督作品が次々ヒット。もうすぐ公開の最新作『プラチナデータ』も話題を集める盛岡出身の映画監督・大友啓史さんにインタビュ。映画づくりのこと、復興への思いなどを伺いました。

—— 大学時代は弁護士を目指していたそうですね。映像の世界に入るきっかけはなんでしたか？

大友（以下📺） 大学の法学部に入学し、弁護士を目指して勉強していたのですが、2年ぐらいで飽きてしまって、就職活動が始まるころには、文学部に転部したいなどと考えていました。文学が好きだったのもあるけれど、要するにまだ学生でいたかったんです。人生経験としてマスメディアを受けて、ダメだった

ら大学に残ろう、と思っ
ていつか受けてみたら、NHK
の採用試験で試験官のプロ
デューサーと意気投合して、
そしたら合格してしまった、
という感じです。

——はじめはドキュメンタ
リーを作っていたと聞きまし
た。

○入局して秋田放送局に配属
されました。地方局なのでド
キュメンタリーからのど自慢
まで何でもやりましたが、ド
ラマだけが未経験。それで志
望してドラマ制作部に移りま
した。ドラマの現場は大所帯
で、僕は下っ端だから辛いこ
とばかり(笑)。このままでは
イヤだと積極的に企画を書い
たりするうちに、少しずつつ

ろんなことを任せてもらえる
ようになりました。その後ハ
リウッドに留学する機会を得
て、2年間脚本や映像演出を
学びました。

——帰国後、数々のヒット
ドラマを手がけていますが、
ハリウッドでの経験はどんな
ところに影響されていると思
いますか？

○ハリウッドでは「自分がド
ラマの現場で思っていたこと
を確かめたい」と考えていま
した。例えばカメラワーク。
現場では、照明やカメラの位
置に合わせて役者さんを動か
すことが少なくありません。
でも僕は「カメラが動けばいい
んじゃないの？」って思っ
てた。カメラや照明を気にし

ていたら、演技に集中できな
いでしょう？ハリウッドで
は、カメラの方が動くんです。
やっぱりそれでいいんだと。
カット割りもそうですね。同
じ場面を複数のアングルから
撮影するとき、「部分」ごとに
撮影して編集でくっつける方
法もあるけれど、僕は通しで
何度も演技してもらいます。

——作品づくりで大事にし
ていることは？

○作品のテーマや本質をブレ
ずに描くこと。マンガや小説
なら、キャラクター、背景、
アングルなど全てを作者が好
きなように操ることができ
る。でも一人ひとり心を持っ
ている人間が演じたり撮影し
たりするのが実写。監督の僕

岩手の銘酒
岩手の旬を
心行くまで

美釀旬彩 匠の [たくみの]

盛岡市大通1-11-4
019-652-1804
◎ 18:00~深0:00(23:30LO)
◎ 日曜
席数/40席 駐車場/なし

匠 takumi-no

おかげさまで開局15周年

RM 76.9
RadioMorioka
radiomorioka.co.jp

〒020-0871
岩手県盛岡市中ノ橋通 1-1-21

が全部をコントロールすることはできません。だからこそ「伝えるべきテーマ」をみんなですっきり理解し、共有することを大切にしています。表面だけを真似したらただのコスプレでしょう。映像化することは「作品のスピリット」を伝えることだと思います。

——もうすぐ公開となる『ブラチナデータ』のテーマは？

○『ブラチナデータ』は、東野圭吾さんの小説が原作です。主人公は、DNAで完璧に犯人を特定できるシステムをつくった天才科学者。しかし連続殺人犯のDNAが彼のものと一致したことで状況は一変し、全く身に覚えがないまま、彼は警察から追われることとなります。「DNAで全てが決まるのか」「人は何によって生きているのか」。作品

のそんなメッセージを、感じてもらえたらと思います。

——岩手出身の大友さんにとって「復興」とは

○どうやって応援していくか、どうやって気持ちを届けるか、ということをよく考えます。僕ができることは「エンタテイメント」をつくり届けること。観ている間は悲しみや不安を忘れることができたり、映画に背中を押されたりすることだつてあるかもしれない。復興に向け、少しずつ生活が落ち着いて来ている今、エンタテイメントは必要とされているもののひとつなんじゃないかと思っています。だから今、存続の危機に立たされているという宮古市の「みやこシネマリン」も、地元の人たちが望んでいるのならば応援したい。東京に

僕ができることは
「エンタテイメント」をつくり届けること。



大友啓史 [おおとも・けいし]

1966年盛岡市生まれ。盛岡市第一高等学校卒業。慶応義塾大学法学部卒業後、90年NHKに入局し、秋田放送局に配属。94年ドラマ番組部に転属。97年から2年間、ハリウッドで脚本や映像演出を学ぶ。帰国後、『ちゆらさん』シリーズ、『ハゲタカ』『白洲次郎』『龍馬伝』などの人気ドラマを手がけ、『ハゲタカ』（09年東宝）で映画監督デビュー。国内外で多くの賞を獲得する。2011年4月NHK退職。株式会社大友啓史事務所を設立。2012年、独立第一作目『るろうに剣心』（ワーナー・ブラザーズ）公開。2013年3月16日には最新作『ブラチナデータ』（東宝）が公開される。

いる自分が発信することで何か支えになれば、と想っています。

盛岡に帰るのは年に2、3回。なるべく時間をつくって地元の友だちにも会うようにしているそう。

「彼らとは職業や立場も関係なしに自然体でいられる。別に何十年も一緒にいたわけじゃないのに、不思議ですね。今は大人になったぶん、話すことが逆に増えた気すらします」。

離れてから何十年経っても盛岡は「ほっとする場所」という大友さん。「それから、盛岡に帰ったら、じゃじゃ麺は必ず食べに行きます」。そう笑って話してくれました。

大友啓史監督最新作

「プラチナデータ」

2013年3月16日(土) 全国東宝系にてロードショー

監督：大友啓史 出演：二宮和也／鈴木保奈美／生瀬勝久／杏／水原希子／豊川悦司
東宝配給

©2013「プラチナデータ」製作委員会

20社以上の原作権争奪になった東野圭吾の傑作サスペンス。

二宮和也（主演）、豊川悦司の超豪華共演で待望の映画化!

「逃亡者×天才科学者・二宮和也」完璧な科学捜査が実現した世界を描くサスペンス超大作!

STORY

そんなに遠くない未来の日本では、DNA法案が国会で可決され、DNA捜査によって犯罪検挙率が上がっていた。そんな中、連続殺人事件が発生し、刑事の浅間玲司（豊川悦司）がDNA捜査の担当に命じられる。警察庁特殊解析研究所の解析員・神楽龍平（二宮和也）が、同じく殺されたDNAシステムの開発者・琴科早樹（水原希子）の殺害現場に残された毛髪を解析してみると、コンピューターが割り出した犯人は神楽自身であった…



©2013「プラチナデータ」製作委員会

deco 酒ShumoleKitchen

〒020-0024 盛岡市菜園1丁目12-6 アーヴァーズビルB1F
tel 019-623-8977

炭火焼 炭火焼・居酒屋
山崎 やまざき
yamazaki

盛岡市中央通り 1-11-7
釜川ビルF

学 18:00～朝4:00迄

休 日曜 ☎ 625-7203



3.11を振り返り、
改めて考える

「私たちができること」

復興支援シンポジウム
2013年2月11日(月・祝)開催

- 場所 / 岩手県公会堂
- パネリスト / 佐藤年男さん(前盛岡駅 駅長)
藤村俊雄さん(ゆいねっと盛南 事務局)
松本直子さん(mi cafe 店主)
澤口勝美さん(大槌町在住)
- コーディネーター / 吉田良勝さん(ながまち梅の湯マネージャー)
- 主催 / 盛岡市、SAVE IWATE
- 運営協力 / もりおか復興支援センター、もりおか復興支援ネットワーク



パネリストのみなさん。今後の復興について「観光の推進」「現地へ行き現状を知る」「できることをできる範囲で」「どんな支援が必要か、被災地からも発信する」などの意見が出されました。



「荒谷正勝社中」ライブでは、オリジナル曲のほか、白澤みさきさんの「故郷」、ノリシゲさんの「歩きましよう」なども披露。

東日本大震災から1年11ヶ月の2013年2月11日。盛岡市の岩手県公会堂で「復興支援シンポジウム」が開催されました。

「震災後2年、盛岡だからできること」をみんなで考えよう、と盛岡市とSAVE IWATEが主催。「荒谷正勝社中」のライブからスタートし、続いてパネリスト4人がそれぞれの立場から「3・11」を振り返り、今後の復興のあり方について語り合うパネルディ

スカッションを行いました。

復興支援活動に携わっている人、沿岸から内陸へ避難している人、一般市民などおおよそ100人が参加。来場者からも震災当時の体験や緊迫した状況が語られるなど、「あの日あの時」を会場の参加者それぞれが思い返し、今後「自分たちができること」について改めて考える機会となりました。



参加者の方々も、震災体験や、その後の状況、感じたことなどを話してくれました。

1 藤原養蜂場×早野ファーム ほおずきんちゃんアイス

藤原養蜂場のハチミツのまろやかな甘みと、食用ほおずきの酸っぱさがとって美味しいアイスクリーム。果肉もたっぷり入ったプレミアムな一品です! (2個セットを2名様にて)

提供 / 岩泉・有限会社早野商店



2名様

読者プレゼント

復興応援をしているお店や企業や団体様の、おいしい逸品からオリジナルグッズまで。みなさまへプレゼントとしていただきました! ご意見ご感想をご記入の上、是非ご応募ください!!

3 SAVE IWATEオリジナルTシャツ

人気漫画家7人のキャラクターがにぎやかな、SAVE IWATEオリジナルTシャツをプレゼント。今や入手困難なアイテムなので、この機会にぜひ応募ください!! (サイズはLのみとなります。)

提供 / 東日本大震災被災地支援チーム SAVE IWATE



1名様

2 ほんつゆ×白だし

ガレキから見つかったレシビから再現した「ほんつゆ」と上品な味わいにこだわった「白だし」をセットで2名様にプレゼント。創業140年余年岩手陸前高田で培われた味です。

提供 / ヤマニ醤油株式会社



2名様

5 シンライン コースター

「あなたの夢を形にします」がモットーのサンパッション。同店オリジナルの、ギターをモチーフにしたインテリアコースターを2個セット2名様にプレゼント。

提供 / SUN PASSION



2名様

4 三陸の和グルミ&和くるみ割り器セット

製法が困難なために幻といわれた「オニグルミ」。和グルミと和くるみ割り器をセットで。三陸の和グルミプロジェクトホームページには食べ方やレシビ集も掲載。味の濃厚さは絶品!!

提供 / 東日本大震災被災地支援チーム SAVE IWATE



2名様

応募方法

必要事項(氏名、年令、性別、住所、職業、ご意見ご感想)と希望商品を記入の上、官製はがき、もしくはメールでご応募ください。ご期待に添えないこともございます。あらかじめご了承ください。

宛先 / 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-21
ラヂオもりおか内

「Stitch」編集部 プレゼント係

アドレス stitch@morioka-fukkou.com

6 ハナビール ピルスナー

被災地に火花を上げるプロジェクト「LIGHT UP NIPPON」とのコラボビール。2本セット6名様に。※ベアレン醸造所の直売所(盛岡市北山)まで直接取りに行ける方に限ります。

提供 / 株式会社ベアレン醸造所



6名様



岩手・沿岸の復興を応援しています

盛岡市菜園1-3-6農林会館1F

☎ 10:00~18:30 休 毎月第2水曜日

Tel 019-626-8178 Fax 019-654-1843



ステラモンテの
歓送迎会プラン

お1人様4,000円より
(4名様~/飲み放題・料理8品)

20名様以上で貸切スペース「源三屋」がご利用可能。ご予算4,000円以上・20名様以上でバス送迎可(盛岡市内) ※要予約、1週間前まで

Stella Monte

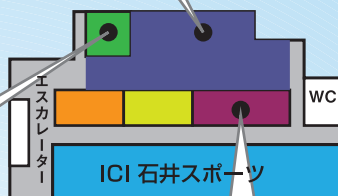
盛岡市大慈寺町10番34号 TEL:019-624-7206
OPEN:11:30~15:00,17:30~22:00

MOSS 2階に **3月29日**
丸善文具 オープン!

M MARUZEN

この春 MOSS の 2 階が

**リニューアル
オープン**



スマイルメガネ研究所



3月20日

移転オープン

ジャーマンズ・スプレックス

GS

GERMAN SUPLEX

3月29日

移転オープン



Web: www.moss-build.com

Facebook: www.facebook.com/moss.morioka